

佐久地域つながろう・つなげよう意見交換会 概要

令和4年10月19日(水) 10:00~12:00

佐久平総合技術高校 浅陽会館

■ テーマ

佐久地域の高等学校について

■ 参加者

○ 県民

学校法人軽井沢風越学園 理事長 本城 慎之介 様

学校法人吉沢学園地球環境高校 理事長 吉沢 信也 様

佐久平総合技術高校 校長 上原 一善 様

小海高校 校長 清水 久樹 様

小・中佐久校長会 会長 森泉 雄二 様

軽井沢町学習センター コーディネーター 照井 将人 様

○ 県

佐久地域振興局 局長 高橋 功

企画振興課長 鷹野 裕司

東信教育事務所 次長 山越 美久

教育委員会高校再編推進室 主任指導主事 柳沢 勝美

■ 主な意見

・長野県は高校も含めて「探求の学び」が教育の軸。今後、高校の空間をどういうふうに地域として活用してくかが、大事になってくる。

・オンラインの普及とともに、校舎に行かずとも学べる状況が必要ではないか。高校の校舎を、その高校に在学していなくても使えるという形をしていく必要ではないか。

・佐久地域で高校のキャンパスを使って、帰省した大学生がオンライン授業に出席するようなことができるといいのではないか。

・南佐久郡の中学生が山梨県の高校へ進学してしまう理由は、ほとんどはクラブ活動。

・私立高校でも通学費用の援助制度がある。どこにいても実は交通費はかからないという事情があると、親御さんからすればどこにいても構わないわけだから、公立高校の魅力ある学校づくりには非常に壁がある。

・今、私立高校も公立高校も、魅力を作るためにすごく疲弊しているように見える。

・昔はそれぞれの学校に役割があったと思う。現在もそれぞれの役割のすみ分けがあってもよいのではないか。それぞれの立ち位置で魅力を出していくことが大事。

・各校にコーディネーターが配置され、地域との連携も進めてゆき、大学との連携も進めていく。コーディネーターが地域を取りまとめて、学校とのパイプができれば、高校はもちろん地域にとってもありがたい。

・学校が持つ相対的な役割みたいなものを、変えていけるものだと捉えるのか、それとも変えずに考えるかがキーポイント。行政のコーディネーターの立場から課題が2つあり、一つ目は、関係者間で目標を共有できているか、同じものを見ているかどうかという点。二つ目は、補完性と価値創造。行政と教育機関が補完できる場所を確認しあいながら、価値を作っていくのが理想。

・中学校の部活が将来的には地域に移行するという方針に関して、高校もいずれ地域の総合型スポーツクラブのような形に流れていくこともあるのでは。ただ問題は、やはり移動手段になる。中高生の生活ベースにあった移動手段を充実させていくことが大事。

・高校の特徴を中学生にアピールすることは、地元企業の役割。企業側とか産業側が各高校のスポンサーになり、大手企業に人材を持っていかれぬよう、学校ごと支援していかなければならない。

・地域の人たちが自由に学校にきて、そこでいろいろなことをしたり、またそこで高校生と連携して商品開発するとか、地域に開放できる部屋というのは絶対必要。

・地元の商店街が、将来、人がいなくなることを見越して、商店街を6ブロックぐらいのまち（町、街）を作って、それぞれがまちづくりをすると聞いた。ここに高校が入って何かタイアップできれば面白いことができるのでは。